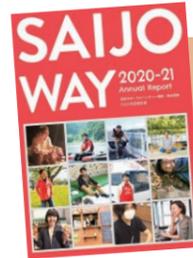


# ここから始まる 西条の未来

3年前に始動した、「ローカルベンチャー誘致・育成事業」。それぞれの起業家たちが、このまちの未来を守るために地域の課題や埋もれている魅力（資源）を種にして活動しています。統括をしている安形真さんに事業内容や進捗状況、3人の起業家に活動への思いを聞いてきました。

令和2年度活動報告書。  
産業情報支援センターで配布中



各起業家の紹介・活動報告書（令和2年度）はホームページからでもご覧いただけます▶



数年前に生まれた、「ローカルベンチャー」という言葉を知っていますか？ 地域の課題解決のために起業した、ベンチャー企業（冒険的な新しい取り組みをする企業）のことです。西条市では、3カ年計画でこれらの誘致・育成を実施。全国各地から個性的なメンバーが移住し、行政の支援を受けつつ、自分たちのアイデアをもとに活動しています。

西条の自然や食の資源を、商品やサービスに生かす人。IT技術で農業や地域の課題に取り組む人。豊かな

な自然を次世代へとつなごうとする人など、活動内容はさまざま。「よそ者」の視点だからこそ気付ける地域の魅力を、最大限に引き出そうと尽力しています。

メンバーの活動拠点も、去年1年間で5カ所増えました。ヨガ教室「古民家いまここ」や、「ららじユース」、バインミー（ベトナムのサンドイッチ）を販売する「LAKI's KITCHEN」など、市内各所でローカルベンチャー事業の広がりを感じられます。

3年間でできることは限られていますが、知名度も上がり、協力者も増えてきていると思います。今年は事業の最終年度で、メンバーは目標に向かって活動中。これからは各自が独立して事業を育てていくので、メンバーに関わっていただく事などで、ぜひ応援してほしいです。



一般社団法人リズカーレ  
代表理事 安形真さん  
内閣府地域活性化伝道師。現在は西条市の起業支援を行う。

## アウトドアをもっと自由に。 常識にとらわれない楽しみ方を

アウトドアとつながりの深い、林業や農業にも関わりつつ、ガイド業をしている「西条アウトドアサービス」の上田公彦さん。1グループごとの少人数制で、この土地に合った自然の楽しみ方を提案しています。



「楽しみ方は、一つじゃない。まずは自然と触れ合う楽しさを知って欲しい」。そんな思いで、老若男女問わず安全に楽しめるアクティビティを提供している上田公彦さん。アウトドアのハードなイメージを180度変える、自由なガイドを行っている。SUPの体験会では、8割のお客さんがボードの上で昼寝をするそう。「スタンドアップパドルボードという名前だけど、『立つてこぐ』必要はないんです」。年齢関係なく、ゆったりと自由に楽しめるスタイルで、リピーターのお客さんも増えています。



西条アウトドアサービス  
上田 公彦さん

熊本県天草市出身。大阪のアウトドア店で働きながら、ガイドとして活動。自然が一つのまちに集まった西条市に魅力を感じて、移住を決断。

「石鎚山を登り切ることをゴールに登山に連れて行かれて、『もう山登りしたくないです』って人が結構いて。休暇村の少し上にある『永納山』なら、広く整備された遊歩道もあり30分で登頂できるので、例えば夕方、仕事終わりに登ってもきれいな夕日が見られます。そこでコーヒーを飲んだり、石鎚山系の山々や瀬戸内の多島美を眺めたり。アウトドアって、気軽に楽しめるものなんです」と、西条のコンパクトに自然が集まる環境を生かした過ごし方を提案するのが上田さんのスタイル。

現在は、農業体験などを含めた旅

行プランも計画中。「県外からの観光客は、日本百名山の石鎚山に登った後、道後温泉に泊まるというパターンが多い。将来的には、農業体験やカヤック・トレッキングなどの体験を組み合わせて、宿泊込みで西条を満喫できるプランを作っていきたい」と、意欲をのぞかせます。

体験会で「気持ち晴れました」など、感謝の言葉をもらう事も多いという上田さん。「一生懸命ガイドして喜んでもらえて、良い仕事だなあ。と芯から思いますね」と笑顔。皆さんもぜひ、癒やしの体験会に参加してみてくださいいかがでしょうか。

### 市民からの応援メッセージ



SUP体験会のリピーター  
瀬野 貴美枝さん

私の娘は足が不自由ですが、体験会の前に上田さんが「参加しても大丈夫だよ！」と声を掛けてくれて、今ではすっかり家族ではまっています！ 楽しみを作ってくれて、ありがとうございます。

▼市内で活躍する起業家たち



# 寄付をもっと身近に。 ZENでつなげるみんなの未来

メッセージのやりとりをするだけで、ボランティア団体にお金が寄付される「ZEN messenger」。国内初のアプリの開発に挑戦している鈴木直之さんは、試行錯誤しながら企画・運営に取り組んでいます。



西条市のボランティア団体への寄付をインターネットで募るサービスを企画・開発している鈴木直之さん。以前は、「ありがとう」のメッセージに「プレミアムZEN」という500円の少額支援金を添えて送る、というアプリを制作していましたが、なかなか課金してくれる人がいなかったそう。「そこで、地域のためにお金を出してくれる人と、メッセージのやりとりを通じてボランティア団体へお金を分配してくれる人とを分けてみました。する

とお金は集まったんですが、次に分配してくれる人がいなくて。まを良くしている団体を応援したいっていうのは、僕の課題であって、ユーザーさんの課題ではなかったんですね」と振り返ります。試行錯誤しながら、気軽に利用してもらえる仕組みを考えている鈴木さん。「僕みたいな、どこの誰かも分からない人間に協力してくれた皆さんの『善意』を、自費で地域のために活動している人たちに届けたい」。恩を広げるため、日々奮闘しています。



**ZENTECH**  
鈴木 直之さん  
大阪府・高槻市生まれ。ベンチャー企業のIT部門立ち上げに関わった後に独立し、12年間飲食店を経営。平成31年に西条市に移住する。

ボランティア活動の資金は、現状では自分たちで持ち出したり、遠い場所での活動は自費で交通費を出したりするときもあるそう。「でもそういう人たちが、『自分たちが好きでやってるから』っていう思いでされてる。そこにまちの人たちも巻き込んで、活動自体を広めていきたいんです。他にも寄付できる所はあるけど、関心がある人じゃないと行かない。もっと地域密着型で、自分たちもまちづくりに『参加している』という実感を気軽に持つてもらえる仕組みを作りたい」とこれから夢を力強く語ってくれました。

## 市民からの応援メッセージ



今井自動車整備工場  
今井 博志さん

全てが感謝でつながっていくのを実感できるアプリです。西条で、ソフトウェアを作ってる人は初めて見た。どんどん新しい風を吹き込んで、まち全体をつなげていってほしいですね。

# 西条産の「おいしい」を 農家さんと届ける

西条の過剰生産・規格外・無農薬の農産物を活用して、健康志向のジュースのほか、かき氷やホットサンド・カレーなどの軽食をキッチンカーで販売する野口あすかさん。コロナ禍での営業を支えてくれたのは、地域の人々でした。



**ららジュース**  
野口 あすかさん  
出産と、父親の病をきっかけにUターンを決意。有機農作物を使った、体に良い・おいしいメニューを日々研究している。

「地域の資源を生かして、いろんな所に丹原の元気をあすかさんが話したい！」と目を輝かせながら話すのは、一児の母である野口あすかさん。「キッチンカーで、農家さんとお客さんをつなぐ役割をしたい」と、丹原地域を中心に活動しています。活動当初は、コロナの影響でイベント

が減り、出店先が無かったそう。「どうしようかと悩んでいた時、『うちで出店しなよ』とパン屋さんのお友達の声が掛けてくれたんです。本当にありがたかった」。それから、もぎたて倶楽部、小松オアシスマーケット、いとまちマルシェなど、現在は6カ所で出店しています。「材

## 市民からの応援メッセージ



(株)PENTA FARM  
山内 政志さん

人を集めて、楽しいことを生み出そうとする行動派のあすかさん。地産地消で農業を盛り上げてくれて、僕たちも心強い仲間ができたと思っています。これからも応援しています！

料が手に入らず困っていた時、『知り合いに聞いてこわい』と農家さんを紹介してくれたことも。コロナ禍で大変でしたが、より人とのつながりを感じられた気がします」と、地域の人の支えが野口さんの活動をサポートしてくれていると明かします。「ただモノを売るだけではなく、がんばっている農家さんやお店をみんなに知ってもらいたい」と、店先で出会ったお客さんに人やお店を紹介をしています。「自分を中心に、地域に元気が広がっていく。そんな存在でありたいです」。野口さんは今日も、キッチンカーで地域の人の輪を広げています。